

経営比較分析表（令和5年度決算）

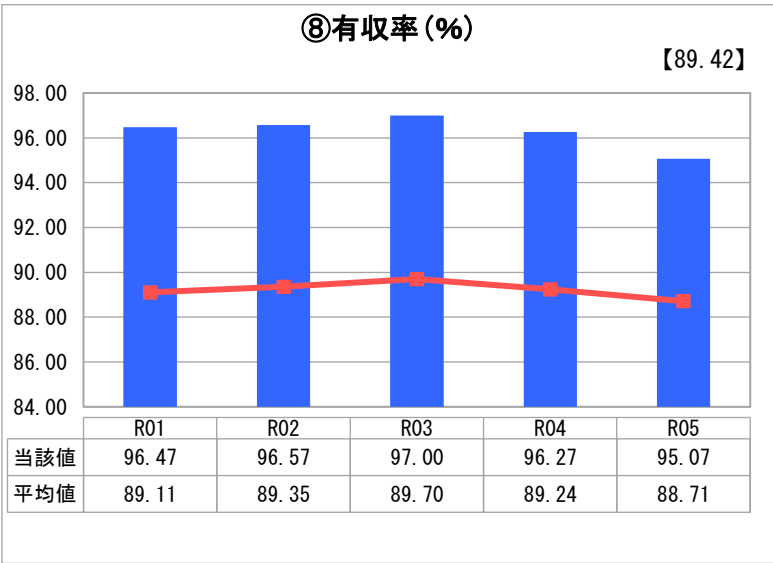
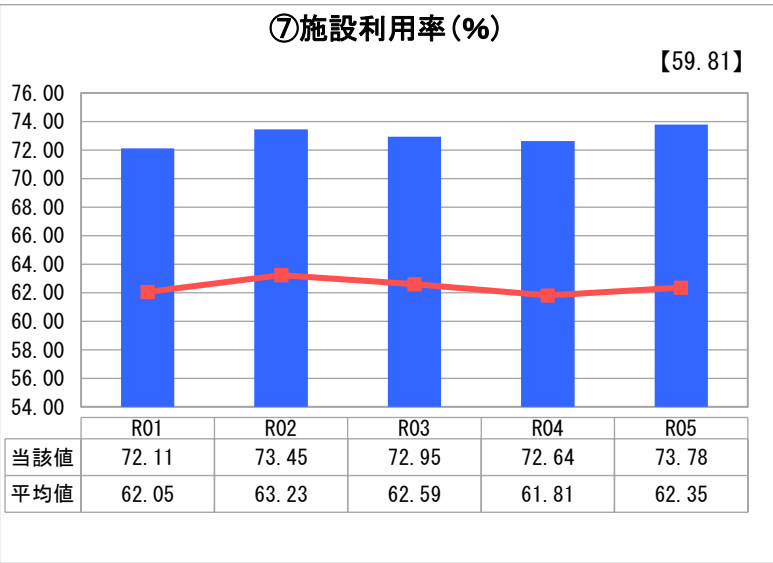
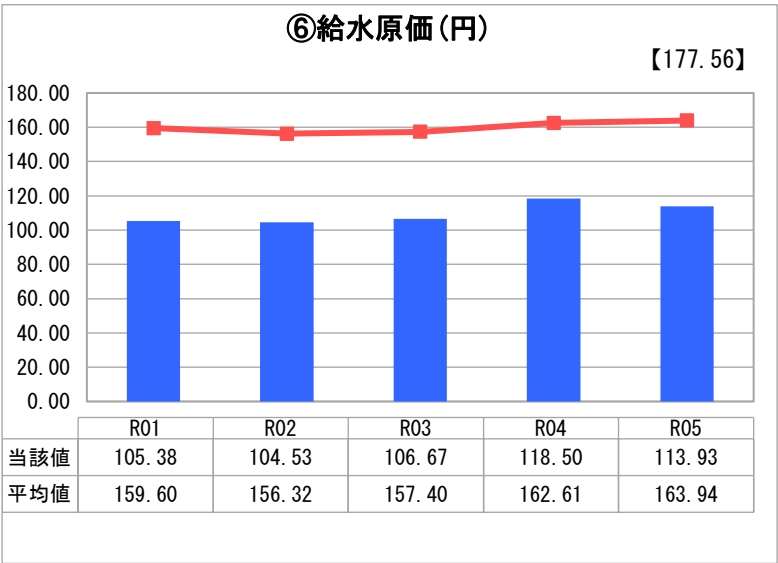
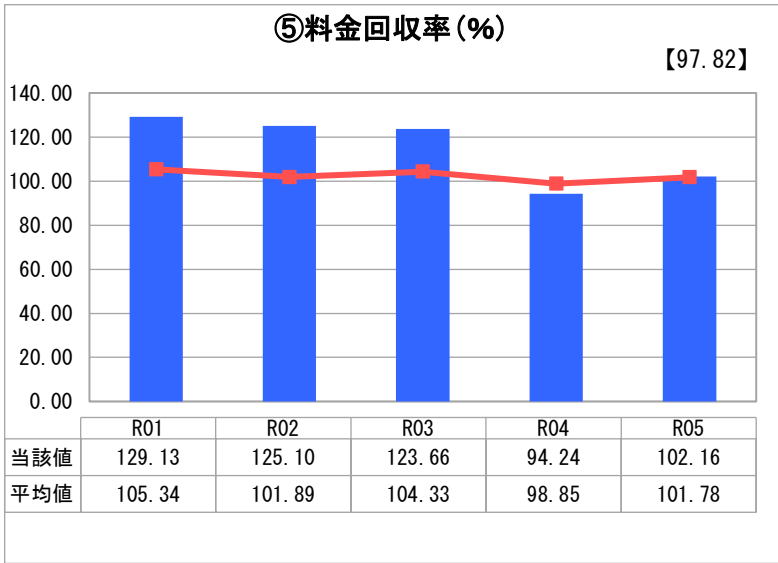
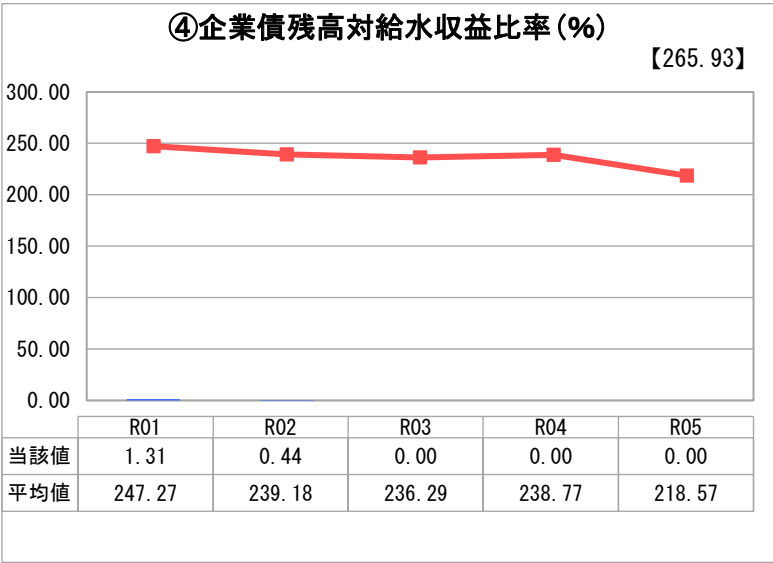
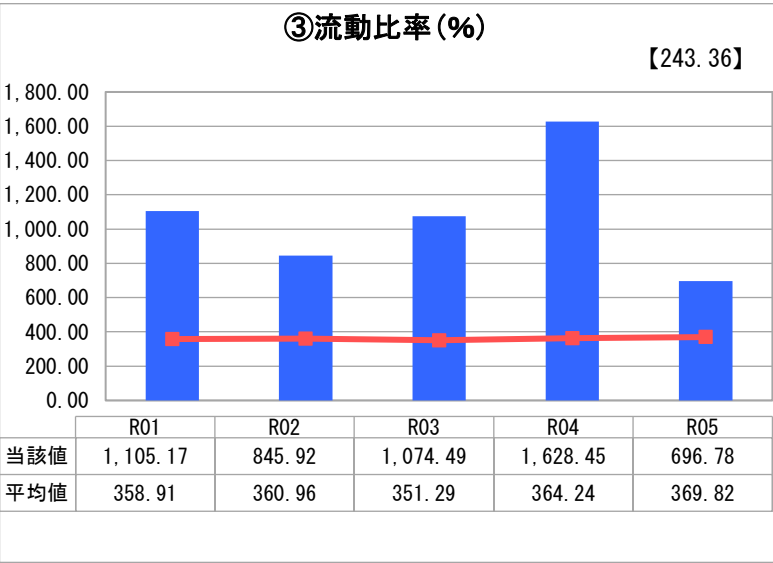
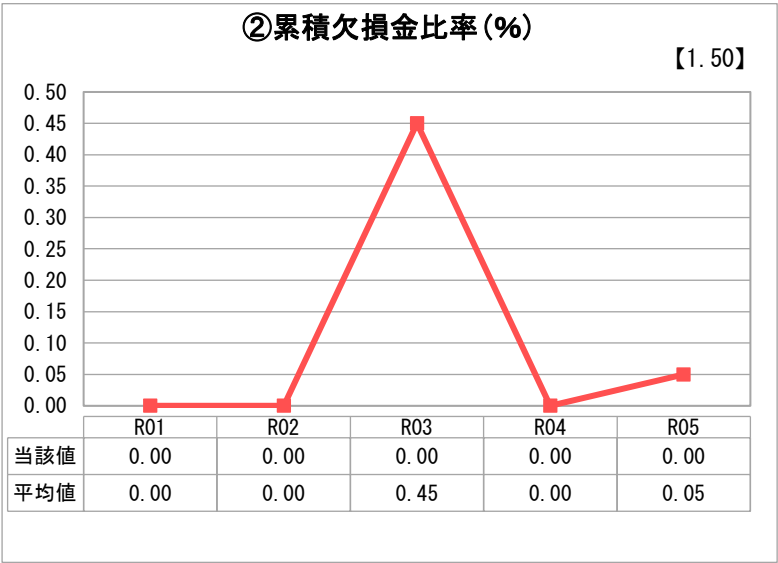
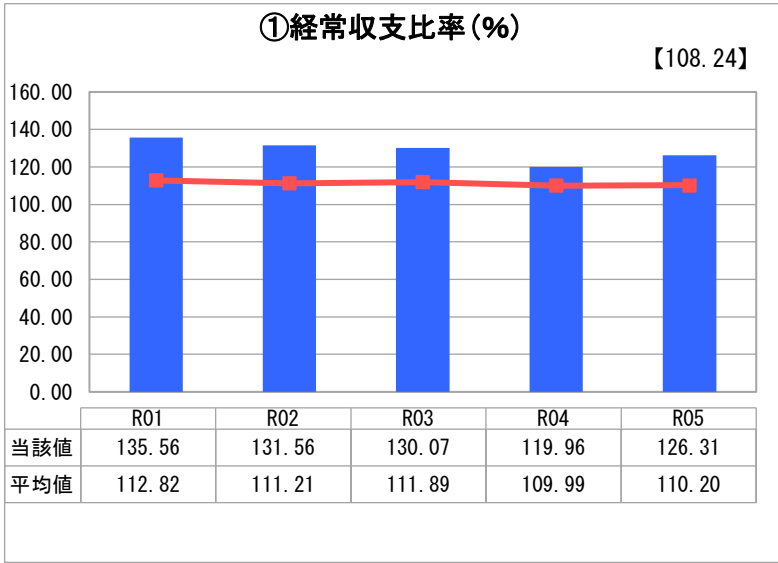
東京都 昭島市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	96.07	100.00	1,628	

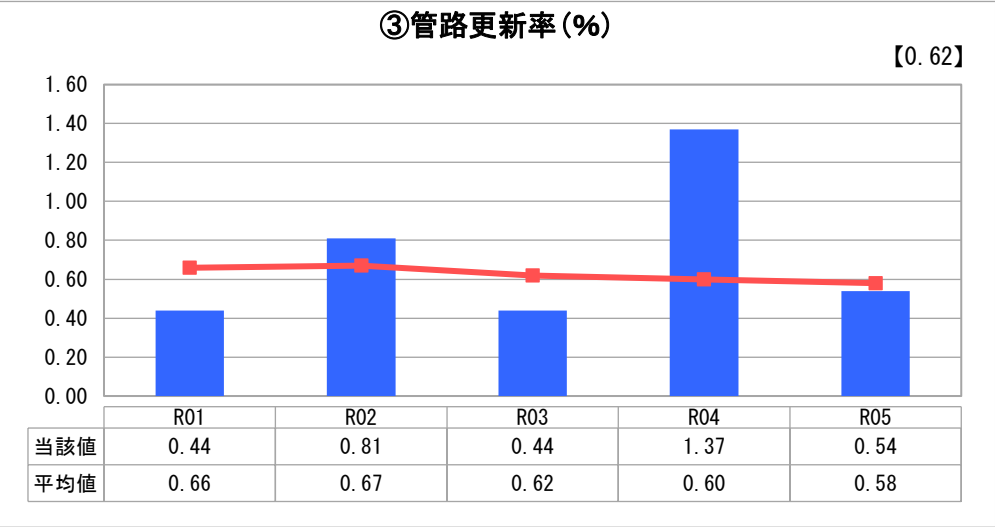
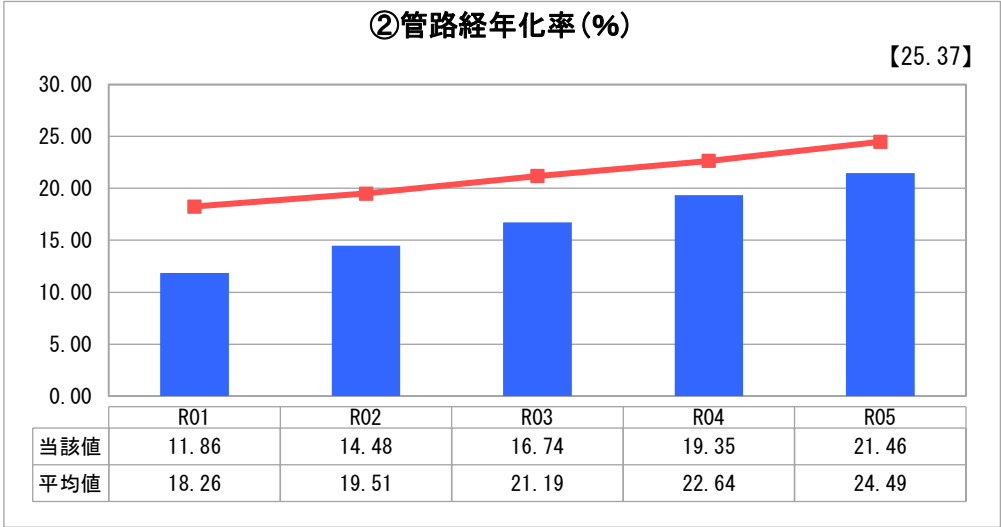
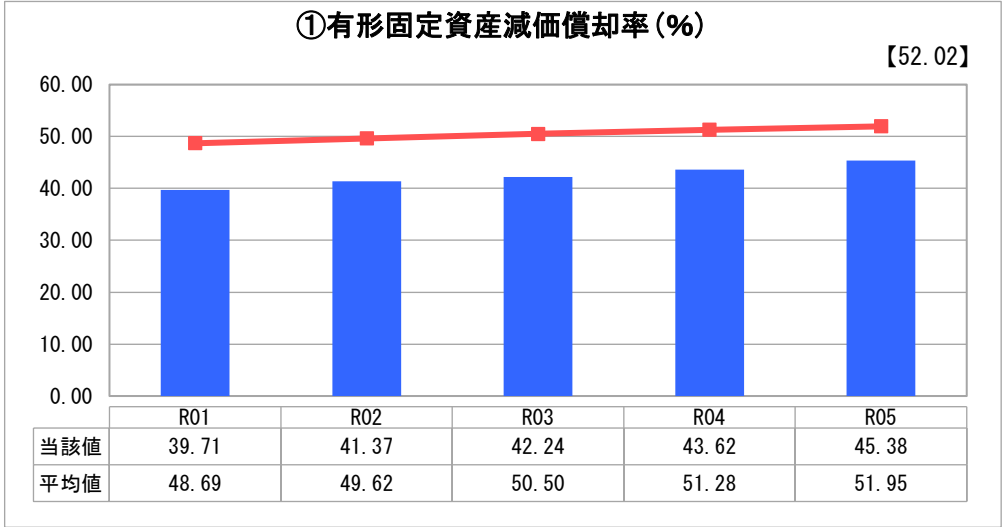
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
114,516	17.34	6,604.15
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
114,577	17.34	6,607.67

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

収支のバランスを示す①経常収支比率は、毎年度100%を超えており、持続して経常利益を計上しています。

平成22年度から令和5年度までに3配水場の更新、1配水場の整備を実施して多額の建設改良費を支出している中において、④企業債残高対給水収益比率からも分かるとおり企業債に依存することなく事業を進めています。また、短期的な債務に対する支払い能力を示す③流動比率も令和4年度に引き続き令和5年度においても600%を超え、支払い能力を維持していることを示しています。

水道料金は、令和4年度に比べ、⑤料金回収率が示すとおり若干の増加となりましたが、これは、コロナ禍による基本料金の減免事業等の実施によるものです。料金につきましては、全国的にも低額な料金を維持したまま、事業費を賄い、余剰金を積み立てて計画的に施設更新に取り組むことができています。

費用の効率性を示す⑥給水原価も低く、施設の規模を示す⑦施設利用率も概ね適切で、⑧有収率も高水準にあり、取水した水を無駄なく収益に結びつけていることを示しています。

以上のことから、現状は経営の健全性を維持することができており、効率的な運営ができています。

2. 老朽化の状況について

施設全体の老朽化の度合いを示す①有形固定資産減価償却率は、平成22年度から令和5年度まで配水場更新・整備事業に取り組んできたため、ほぼ横ばいで、適切に施設の更新が進んでいることを表しています。

管路は、年々②管路経年化率が上昇していますが、他の類似団体よりは低く、漏水等による水の無駄も少ない状況です。しかしながら、③管路更新率は平成29年度以後、他の類似団体より低く、管路の更新（耐震化）を加速させることが課題となっています。

優先して取り組んできた配水場の更新・整備事業は完了し、令和4年度から中央配水場の自家発電設備更新事業に着手しています。

平成30年3月末に策定した第二次水道事業基本計画に基づき、令和4年度に新しい管路更新計画を策定し、管路更新事業を本格化させています。

全体総括

本市水道事業は、清浄な地下水源に恵まれるという好条件もあり、低コストでの給水を実現し、経営の健全性を維持しています。

今後は、昭島駅北側の開発により一時的な人口増加が見込まれる中、管路網の強靱化を図るなど適切に施設更新に取り組む必要があります。

今後も深層地下水100%のおいしい水をいつまでも安定して供給し続けるため、第二次水道事業基本計画の各施策に計画的に取り組み、災害にも強い水道施設の整備を進めるとともに施設を良好な状態で維持できるよう、更なる経営基盤の強化を図り、安定的、持続的な水道事業の経営に努めます。